

6. 抗コリン剤が奏効しない過活動膀胱に対する漢方薬と行動療法の効果に関する検討

獨協医科大学越谷病院 泌尿器科

○八木 宏、西尾 浩二郎、佐藤 両、小堀 善友
芦沢 好夫、宋 成浩、新井 学、岡田 弘

【目的】約3割の過活動膀胱は抗コリン剤が奏効せず、治療に難渋しているのが現状である。今回、抗コリン剤が投与されるも十分な改善が得られず紹介された過活動膀胱に対して、漢方薬と行動療法を行い、その効果を検討したので報告する。

【対象と方法】2011年7月から2012年1月までの半年間、抗コリン剤が奏効しない過活動膀胱として紹介された女性10例のうち、間質性膀胱炎3例、膀胱上皮内癌1例、膀胱瘤1例を除外した5例を対象とした。和漢診療学的所見により方剤を決定し、抗コリン剤は併用、飲水指導、膀胱訓練、骨盤底筋体操は全例に施行、治療前と治療1~2ヶ月後にIPSS、QOLスコア、影響度スコア、尿中8OHdGを評価した。

【結果】IPSS、QOLスコア、影響度スコア、尿中8OHdGのいずれも改善傾向を示した。

【結論】少数例、短期間の検討ながら抗コリン剤抵抗性の過活動膀胱に対する漢方薬と行動療法の効果が示唆された。今後も症例を積み重ねて検討していきたい。